

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で地域の人々と共に利用者本位の暮らしが出来るように独自の理念を作っている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り後、職員一同唱和擦ると共に日々の介護現場でおりにふれ確認し合っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議に理念を紹介したり、ご家族には毎月の行事のお知らせの中に掲載させて頂いている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物に近所のお店を利用したり、散歩に出かけた際挨拶やお話をさせて頂いている	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町内会に加入させて頂き、総会に出席したり、ホームの行事等には参加して頂けるように案内を出し参加して頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症のご家族を抱える地域の方々の相談を受けたり、高齢者サービス利用のお手伝いや、説明案内も取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の勉強会后職員全員で自己評価を行いサービス向上に努めている。外部評価の結果は全体ミーティングで報告し改善に向けて具体案の検討や実践に繋がるように努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況やサービス内容を報告したり、又行政の介護改正の説明等を行い、頂いた意見は日々の介護に生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の主催する勉強会や説明会に参加したり、介護上分からないこと等については電話等で意見を訊うなどしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	後見人制度の説明や活用については管理者が一人で対応するため職員は理解していない。	○	後見人制度が必要な利用者には、管理者が説明を行っている為、職員全員制度の理解には至っていない
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束委員会を発足し、勉強会を行ったり、月の全体ミーティングで勉強会、委員会報告等を行い、気づかない内に虐待になってはいないか日々の介護中に意見交換を行っているも		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みをされる際にホームのケアに関する考え方や、取り組み等の説明を行い、再度契約時には契約書の読み合わせを行い、疑問点についても理解して頂けるように十分な説明と理解を頂いた上での契約を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の介護の会話や態度から思いを察する努力をしたり、又ご家族の面会時にご本人の思いや、意見等を伝えて頂いている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時、お知らせ、病院受診訪問される時に詳しく説明を行っている。お小遣いを預かっている利用者様のご家族には入金時や面会時サインを頂いている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱や外部に意見が届くように案内ポスターを提示したり面会時はいつでも意見が言えるような雰囲気作りをしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月カンファレンス時職員の意見を聞いたり日々職員が意見を言えるような関係作りに努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の自由な生活が支えられる様に状況に合わせたローテーションを組んでいる管理者は利用者の変化に応じ柔軟に対応出来るように通常のシフトには出来る限り組まないようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は各ユニットごとに確保すると同時に全職員を各階に写真を付けて紹介している。移動時は利用者様全員に理解できるように紹介している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームの年間行事予定表を作成し職員の段階に応じ全職員外部研修に参加出来る様にしている。又他の事業所の勉強会ではグループワークやお菓子作りと幅広い内容を取り入れている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業者や勉強会等を行っている他の事業所と意見交換やホーム見学・研修等を通じサービス向上が図れるように取り組んでいる	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスや健康状態に常に配慮し昼食後等に休憩出来る環境を整えたり、業務分担等にも工夫している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は労働条件に反映させたり、職場内で生かせるように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所希望の面談時、生活状況を把握した上で、ゆっくりご本人の困り事や不安を聞く機会をつくり、また、希望も聞く努力もしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	今までのサービス利用状況やこれまでの経緯をゆっくり聞きご家族の困っている事や不安を把握し事業所でどのように対応できるか、話し合い対応に努めている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間にゆとりを持って相談を受け、一番必要な支援を見極めて、支援出来るようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、ご本人の不安が解消するように、ご家族と一緒に話し合いをして、入居後も職員が話を傾聴して、慣れて頂くまで、他入居者様と自然とお話が出来るように気配りをする様にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る範囲で得意な物をして頂くようにしている。食事の盛り付け、食後のお盆拭き、下膳とそれぞれ入居者様の出来る事を手伝って下さっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事など沢山のご家族が出席出来る様に、早めに案内をお出しして、入居者様と楽しく過ごせる様にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の希望があれば、電話をかけられる様にしている。ご家族からの電話も取次ぎをして、居室でゆっくり話をしている。居室にご家族からの要望などを書いて頂くノートを置き、注意事項や要望があれば職員全員で検討し、改善に向けて支援して行く様、取り組んでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と外出され「従兄弟会」や、ご近所の方達と敬老会に参加され楽しんでおられる。入居者様のご近所の方が面会に来られた際など、ゆっくりお話が出来る様にセッティングして、記念撮影なども随時行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	席替えをしたりして孤立しないようにしている。ソファーなどでも一緒に座って、会話が弾むように職員が会話の中に入り、和やかな話が出来るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院の為、退去された時など、お見舞いに行く様になっている。アルバムの写真などをご家族に届けたり、描かれた絵など、その時の様子を伝えてお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で思っている事など、細かい事なども情報を共有して、把握に努めより良い生活ができるように検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様に聞いたり、ご家族様に聞いたりして馴染みの暮らしが出来る様に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ホールでの会話を聞いたり、食事の進み具合など、様子を伺いながら、見落としのない様に、スタッフ一同、情報を共有するようにして、総合的に把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	よりよい介護支援ができるように、ご本人、家族、スタッフ一同で話し合い、日常生活、体調など蜜に把握できるようにし、入居者様との信頼関係を保つ事で、より良い介護計画が出来る様に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は短期目標の設定は3ヶ月で更新を行っているが、緊急に入院され際などは、退院して来られる前に医療との連携をとり、適切な支援が出来る様にし、ご家族と職員で話し合い、介護計画の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの短期目標に沿って記録を残したり申し送りノートなど活用し、情報共有している。入居者の担当を決めを行い、月末から月初めにかけて、各担当者が担当入居者のモニタリングを行っており、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者のご家族が遠方から来られた際、ホームに泊まって頂くなど、柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者様が安心して地域で暮らしが続けられる様、ボランティア、消防との連携を取っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人様の希望や体調に応じて訪問マッサージや移動美容室などのサービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会への参加を頂いている。今年度の運営推進委員会に於いて、各グループホープのケアマネの勉強会を開催予定であるとの話を頂く。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の係りつけの病院への受診や往診を行っている。係りつけ医との連携を取りながら、その方に適切な医療が受けられる様、バックアップしている。病院受診は、基本的にはご家族にお願いしているが、ご家族が行けない際、職員が対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者様の主治医やご家族との連携を取り、専門医を受診して頂く様話をする。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者様の状態を観察し、異常がある場合、管理者、ご家族と相談の上、受診して頂く様話をする。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者様の様子を見に行き、主治医との連携を取りながら検討している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族と何度も話し合いをし、医師とも相談している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者様が少しでも重度化しないよう、ご家族や医師と相談し、ご本人が快適に過ごせる様、カンファレンスを行っている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームでの入居者様の状態をご家族へ情報を提供し、次の施設でスムーズに生活できるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声をかける内容、タイミングなどをみながら出来るだけ本人様の誇りやプライバシーを損ねない様に支援している。記録等の個人情報は他の方の目に触れない所へ保管してある。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	衣類を選んだり。作った作品掲示の場所を選んだり、選択肢をいくつか作って、本人の自己決定の場を作る支援を行っている。その際、個々に関わる説明の工夫を心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人様のペースで介助出来る様、職員間で連携を取って見守っている。見守りの中に本人様の状態によっては、話を聞いたり「どうしたいのか」希望がより近い形で支援出来るか、注意深く探ったりもする。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人様の希望があればいつでも行ける支援をしている。又、お店まで行けない方は移動美容室などの利用が出来る事をお伝えし、本人様の好みの髪型にカットして頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中で「何が食べたいですか？」と聞いたり、一緒に買い物に出かけたりしている。又、食材の盛り付けやお盆拭き、台拭き、茶碗洗いなども一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物に行った際、入居者様が自分で選んで買って頂いている。又、会話の中で「〇〇を買って来て欲しい」など話される場合は外へお誘いし、「一緒に買い物に行きましょう。」と声かけもしている。本人様の嗜好は一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるように支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけ快適に排泄して頂ける様、綿パンツを殆んどの方に使用して頂いている。失敗等もあるが「大丈夫ですよ」という安心感を与える様な声かけで支援し、こちら側からもさりげなくパターンを把握して声かけしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人様の訴え、希望があればいつでも入れる状況であることをお伝えしている。(夜勤帯の場合のみ見守り出来ない事理解して頂いている。)		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間の活動が負担とならない様、個々の状態を観察しながら支援している。眠れない方などカンファレンス時に話し合い、原因を探ると共に支援の見直しも行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人様が出来る事と楽しみにしていることなどは、出来るだけして頂いている。又、日常の中で新しく出来ることなどを見守りなど通し観察し、声かけ入れながら負担にならない程度で誘ったりしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の難しい入居者様はホームで小遣いとしてご家族よりお預かりし、自己管理出来る入居者様は自分で管理している。自己管理が難しい方でも本人が持ちたいとの希望があれば持って頂き、時々一緒に確認したり、さりげなく声かけしている。保管方法を検討した結果、紛失の心配なく自己管理できている入居者様もおられる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの入居者様と外出の機会を作ったり、行事で出かけたりしている。又、希望があれば状況に応じ、ご家族様といつでも出かけられたり、職員と出かけられるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様と連絡を取ったり、協力をもらいながら支援している。又、個別や他入居者様と出かける機会も提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人希望で自由にかけられるようにしている。手紙は預かり投函したり、ご家族に手渡ししている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるようにしている。訪問時は居室に案内して、気兼ねなくゆっくりと過ごして頂ける様にしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。定期的に拘束委員会を開催して啓蒙に努めている。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関に鍵はかけていない。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、居室でこもっていらっしゃる方には、声かけ行い、水分摂取して頂いたり、体調などの様子観察を行っている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、必要な物品は居室に置いて頂いているが、注意の必要な物品は一時保管し、いつでも使用できるようにしている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修などに参加する事で知識を学んだり、防災訓練の参加や実施をする事で事故防止にと取り組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修の参加や防災訓練の実施などで応急手当や初期対応の訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。職員が交互に役割分担を決め災害時にスムーズな動きが出来る様訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人ひとりの様子観察をしっかりと行う事で体調の変化や行動の変化に気付き、その都度、ご家族に説明し、対策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの情報を共有し、伝達する事で、変化や異変の早期発見に努め、ご家族との連携を取ったり、病院受診を行う様にしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのカルテを作成している事で、職員が把握できるようにしており、薬の変更などがあった場合には職員間でしっかりと伝達し、業務日誌に書き申し送りを確実にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個別での身体を動かすケアを行ったり、義歯がない入居者様には、小さく刻んだりして食事を提供している。病院受診などもして薬の服用もしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っているが口腔ケアをされない入居者様にはご家族の協力を得て、ご本人様に声かけをしてもらったり、面会時に口腔ケアをしてもらっているようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の入居者様一人ひとりのバランスに応じて摂取して頂き、水分も拒否無く摂取出来る物を提供している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会を定期的を開催し、感染症対策に努めている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は前日に購入し新鮮な食材を使い、調理用具等も除菌を心掛け、清潔保持に努めている。手拭用のタオルも料理担当者専用を設置して、他のスタッフは使用しない様に取り決めをしている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、建物周辺に危険な物など無ないように注意している。玄関入り口にスリッパ入れを設置しており、気軽に出入りが出来るように配慮している。入居者様の作品を階段の踊り場や壁に展示して和やかな雰囲気を演出している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が作成された季節、行事の物で廊下やホールに飾り付けを行っている。季節の花々は常時、入居者様の目に入る所に置き、入居者様が季節感を味わえるように配慮している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファやテレビ等を置き、入居者様同士で気軽に過ごして頂ける様にしている。又、日当たりの良い場所に椅子を置いていると自然に入居者様が集まり、日光浴を兼ねて入居者様同士で会話が弾んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様それぞれの使い易い家具を持ち込まれている。ご本人からの要望があれば職員と一緒にお店に行き買い揃えたりもしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中は窓を開けて換気に配慮している。室内と外気温の差がない様に冷暖房の室温の設定は常にミーティングなどで注意を促している。昼寝の際など各部屋毎の温度確認や調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーに成っており廊下やトイレなど移動し易い様な設計になっている。移動に際して車椅子や歩行器などが障害物にならない様に配慮を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレが分からない入居者様の為にトイレに分かりやすい表示をしたり、居室が分からない入居者様には居室のドアに入居者様がわかるものを目印にしたり工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に水をやったり、気候がよい時はお茶を飲んだりされている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念を基に、一人ひとりの入居者様を尊重したケアに努めている。月一回のミーティング時に入居者様一人ひとりのモチベーションを行い、職員全員で統一したケアを行っている。